

導入イメージ – 年内からの防除を徹底

月	9月	10月	11月	12月
栽培管理	定植	病虫害防除	マルチ展張	収穫開始
導入技術		<ul style="list-style-type: none"> 施設外部にホリバー設置 ポタニガードES散布 	<ul style="list-style-type: none"> 上旬に天敵放飼 施設内部にホリバー設置 	

1月	2月	3月	4月	5月
収穫	収穫	収穫 病虫害防除	収穫	収穫終了
	<ul style="list-style-type: none"> 天敵放飼(オプション) 	<ul style="list-style-type: none"> ホリバーによる発生予察 		

各技術の費用と作業時間（令和4年度時点）

資材	単価(円)	使用量(/10a)	費用(円/10a)	作業時間(h/10a・回)
散布用農薬	—	—	—	4.6
ホリバーブルー	605	20パック	12,100	3.0
ククメリス	5,170	2本	10,340	0.8
リモニカ	30,800	1本	30,800	0.4
ポタニガードES	6,429	0.6本	3,857	0 (4.6※)

※多剤と混用しない場合

体系導入時の農薬使用回数及び経費（令和4年度時点）

項目	化学合成農薬使用回数	農薬散布回数(除天敵)	作業時間(h/10a)	経費(含労賃)(円/10a)
慣行	5.2回	5.2回	23.9	49,099
体系※	0回	1回(3月)	8.8	66,851

※2月の天敵放飼を実施せず、スピノエース顆粒水和剤等を使用した場合

協力
発行
発行者
問合せ先

アリスライフサイエンス株式会社
令和5年8月
館山市いちご技術交換協議会
千葉県安房農業事務所改良普及課
〒294-0045 千葉県館山市北条402-1
TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097

安房地域のいちご栽培における 天敵等を活用した アザミウマ類対策マニュアル



館山市いちご技術交換協議会

アザミウマ類の特性 – 敵を知る

体長2mm未満の微小昆虫です。いちご栽培では特にヒラズハナアザミウマ（雌の体色が黒褐色、表紙左上）の春季の発生が問題となります。

主に花に潜み、花粉や果実を吸汁加害します。加害されると表面の褐変や肥大不良等の症状（表紙右上）が発生するため、品質と収量が大きく低下します。

世代日数が15日程度と短いため薬剤を多用すると抵抗性の発達を招きやすく、施設内の防除作業は作業時間と作業負担が大きいため、代替となる防除手段を導入していく必要があります。

グリーンな栽培体系 – 化学合成農薬削減と省力化へ

アザミウマ類の防除における化学合成農薬の使用量削減と省力化を目的として、以下の資材、天敵、微生物農薬を導入します。

（単体でもよいですが、複数を組み合わせて導入することが望ましいです。）

- ①青色粘着シート
- ②ククメリスカブリダニ剤
- ③リモニカスカブリダニ剤
- ④ボーベリアバシアーナ乳剤

資材の使用方法 – 物理的防除

- ①青色粘着シート（ホリバーブルー）

アザミウマ類が青色に誘引される性質を利用して、捕殺する資材です。

施設の内外に設置することで、アザミウマ類の拡散、侵入を抑制します。

また、シートの定期的な観察により、アザミウマ類の発生を予察することができます。

春先に捕殺を確認したら、早期防除のため農薬使用の準備をしましょう。

▼推奨導入時期

施設外部：10月、施設内部：マルチ展張後（～11月中旬）

施設外部については、飛砂等の付着により粘着力が低下したら、交換しましょう。

施設内部については、交換する必要は基本的にありません。

▼推奨導入方法

施設外部：適量、施設内部：200枚/10a（標準）

施設入口や雑草の付近等、侵入が予想される場所への重点的な設置も有効です。

畝、地面に立てた棒や竹ひごにシートを括りつけて設置します。

▼注意点

粘着力が非常に強いため、作業員や来園者が触れないように周知します。



△いちごの株の上に設置



△黄色粘着シートと併用し、コナジラミ類等を防除

天敵の使用方法 – 生物的防除

- ②ククメリスカブリダニ剤（ククメリスEX）

- ③リモニカスカブリダニ剤（リモニカ）

アザミウマ類を捕食する天敵の製剤です。

天敵はがくの裏や花の中に潜み、アザミウマ類やコナジラミ類の幼虫を捕食することで増殖を抑制します。

農薬散布と比較して作業時間が短く、防除衣も必要ありません。

▼推奨導入時期

- (1) 11月上旬（推奨）

秋季に施設内へ侵入したアザミウマ類を防除し、春季の発生を抑制します。

- (2) 2月（オプション）

春季の施設外からの侵入に備えて、追加放飼をします。

ただし、侵入個体数が多いほ場では、対処できない可能性があります。

▼推奨導入方法

- ②ククメリスEX 2L/10a・回
 - ③リモニカ 1L/10a・回
- 放飼

内容物をいちごの株上にふりかけます。

ほ場面積に応じてボトルに使用量目安の線を引いておくと、適量を使用できます。

放飼後のボトルにも天敵が残存しているので、蓋を開け、畝に倒して置きます。

②③のいずれか一方を使用する場合は、使用量を倍にすることを検討します。

▼注意点

導入期間中の薬剤は、天敵の生存に影響の小さいものを選択して使用します。



△軽装で畝間を歩きながら、両手で放飼



△がく裏に潜む天敵

微生物農薬の使用方法 – 生物的防除

- ④ボーベリアバシアーナ乳剤（ボタニガードES）

害虫に寄生する糸状菌の製剤です。

寄生された害虫（アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、コナガ）が死亡するほか、植物の抵抗性を誘導することで、うどんこ病の発生を抑制します。

▼推奨導入時期

定植後～天敵放飼前（10月）

低温期は効果が低下するため、温暖な時期に使用します。

天敵への影響がわずかにあるため、使用は天敵放飼の前日までとします。

▼推奨導入方法

1,000倍希釈 100～300L/10a・回 散布（令和5年8月時点での登録情報）

定植後に使用する殺虫剤と混用して散布することで、その効果を高めます。